

# 内部統制

## 内部統制に関する考え方

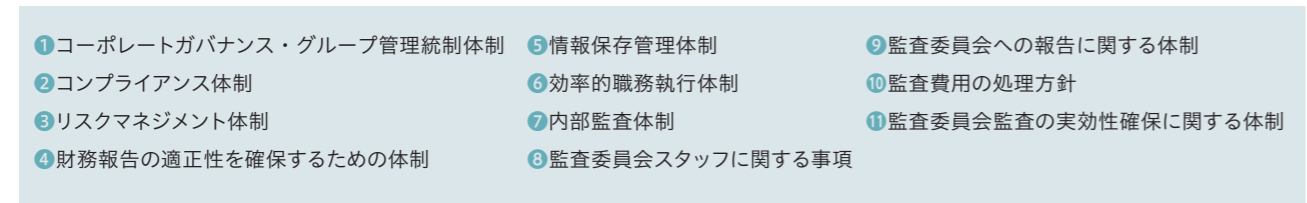
三越伊勢丹グループは、健全かつ透明性の高い企業経営を目指すうえで、業務の「有効性」と「効率性」、財務報告の「適正性」と「信頼性」を考慮し、適切な内部統制システムの維持・管理体制を構築しています。

「内部統制システム構築の基本方針」において、コンプライアンス・リスクマネジメント体制の確立と実効性の高い運用によるリスク管理、適切な情報保存管理、効率的な職務執行体制やグループ会社管理等、企業統治の強化および質の向上に向けた各項目を定義し、内部統制システムの強化と充実を図っています。

## 内部統制システムの運用

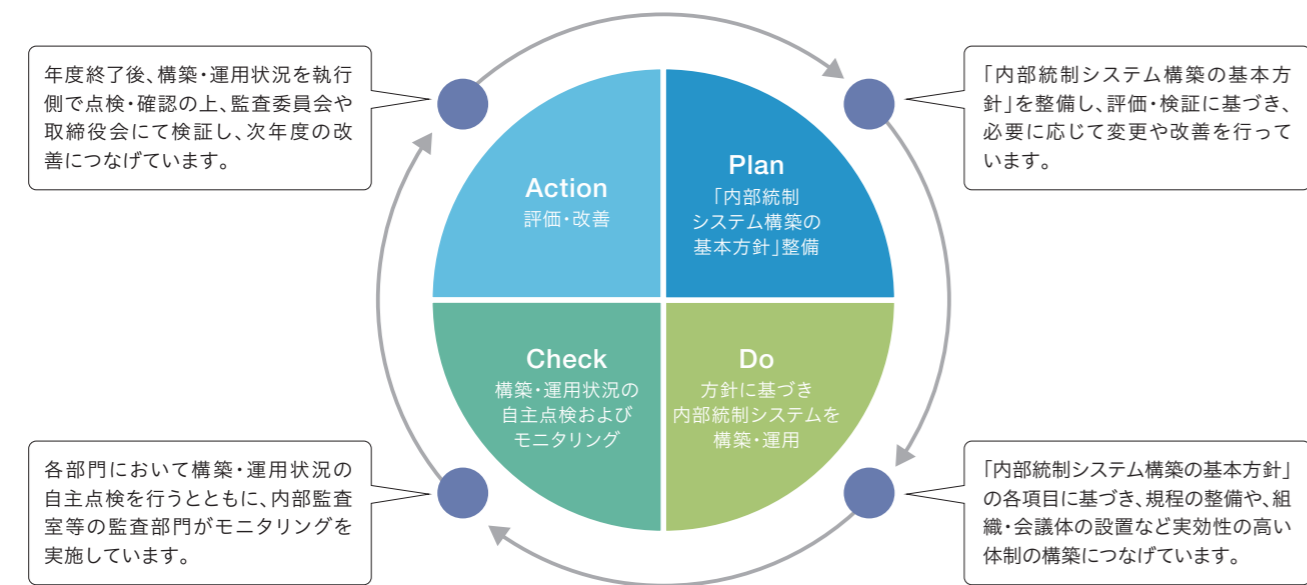
### ◆ 内部統制システム構築の基本方針

当社グループでは、2008年の取締役会にて内部統制システムの基本方針を制定し開示しています。以降、時代や環境の変化を踏まえながら、実効性の検証により継続的に見直しを行い、グループ全体にわたる企業行動の適正化と効率的な推進体制の構築に向けて改善を図っています。以下は当社の「内部統制システム構築の基本方針」における各項目です。



### ◆ 内部統制システムのPDCAサイクル

当社グループは、以下のPDCAサイクルのもと、内部統制システムの構築・運用状況を適切に把握するとともに、検証と改善を行い、体制の充実に取り組んでいます。



### ◆ 2023年度の運用状況の概要

運用状況の主な概要は以下のとおりです。

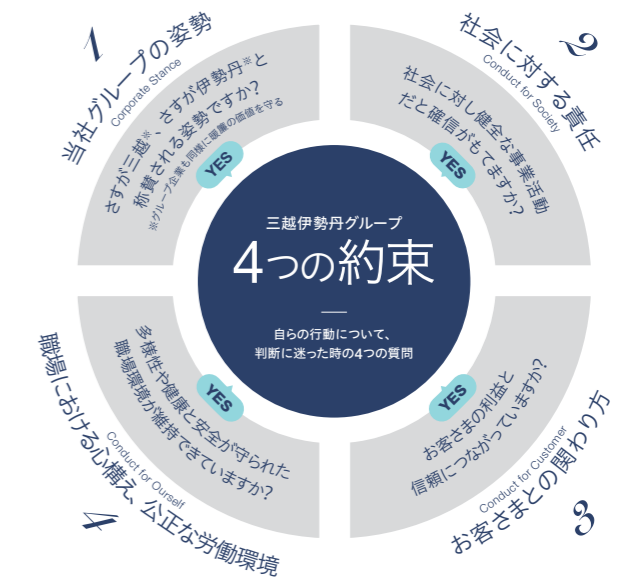
項目	主な概要
1. コンプライアンス体制	・グループの全役職員が守るべき倫理的基準をあらためて再整理した「三越伊勢丹グループ行動規範」の制定 ・コンプライアンスとリスクマネジメントの各機能の更なる実効性向上を図るため、2024年度よりCAOを委員長とした「コンプライアンス委員会」の設置を審議・決定
2. リスクマネジメント体制	・グループ全体のリスクを網羅的に整理した「リスク一覧」を用いて、個々のリスクへの対応状況を月次で評価し、執行役員等に定例報告を実施 ・経営戦略の推進や重大な経営リスクへの対応をさらに強化するため、2024年度よりCROを委員長とした「リスクマネジメント委員会」の設置を審議・決定
3. 財務報告に係る内部統制体制	・適正な財務報告の実現のため、関連法令や社内諸規程に基づく、情報インフラの整備や不正アクセスへの技術的対策など信頼性を確保する体制の整備・運用 ・新たな法令や行政指導などに対する適切な対応の実施
4. 情報保存管理体制	・社内情報の責任者および秘密情報管理体制を「情報管理規程」に定義し運用 ・重要文書に関する適切な記録・保管・管理体制の推進
5. 効率的職務執行体制	・指名委員会等設置会社として「執行」と「監督」の役割を明確に分離し、経営の意思決定の迅速化と、経営監督機能強化の両軸の実現を推進 ・執行役の分掌範囲を定めながら、「グループ意思決定手続規程」に基づき、執行役員会で重要事項を合議によって決定
6. グループ会社管理体制	・「グループ会社管理規程」に基づき、親会社である三越伊勢丹ホールディングスによるグループ会社の自律性を尊重した管理・支援
7. 監査関連事項	・監査委員会はグループ各社の監査役から各社の状況について報告を受け、その構築および運用状況を確認 ・監査委員会は執行役や内部監査部門、会計監査人と定期的に情報・意見交換を実施することで実効性向上を促進

## 行動規範の制定・推進

当社グループでは、適切なコンプライアンス意識に基づいた事業活動を推進するため、グループの全ての役職員が日々の業務において守るべき倫理的基準を「三越伊勢丹グループ行動規範」に定めています。

従業員が自分自身や他者の行動に疑問を感じたり、日々の活動や業務において判断に迷った際に、「三越伊勢丹グループ行動規範」に立ち返り、一人一人が正しく行動できることを目指しています。

全ての従業員が行動規範を正しく理解できるよう、ガイドブックや動画を作成し、CEOやCAOの経営トップによる従業員へのメッセージを発信するとともに、各所属内での実例に置き換えたケーススタディやディスカッションの実施等を行っています。また、行動規範の認知・理解を図るための従業員アンケートの実施等を行い、一人一人のコンプライアンス意識の醸成・啓発を高めています。



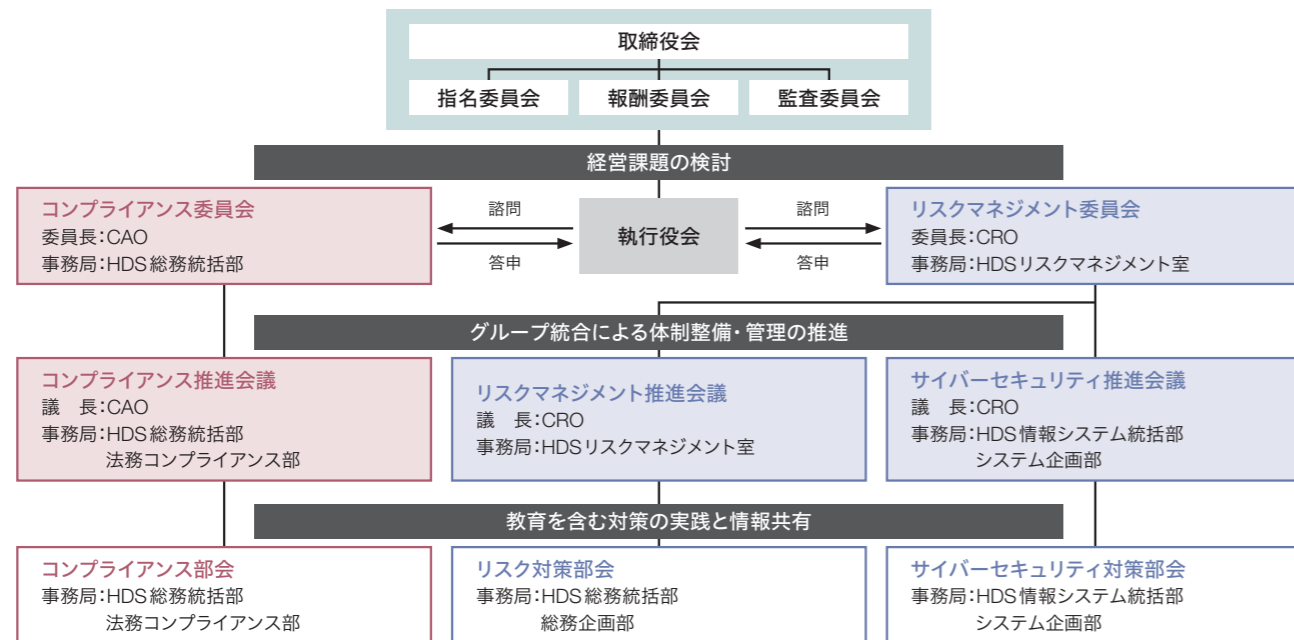
三越伊勢丹グループ行動規範  
 URL: [https://imhds.disclosure.site/pdf/CodeofConduct\\_2024.pdf](https://imhds.disclosure.site/pdf/CodeofConduct_2024.pdf)



# 内部統制

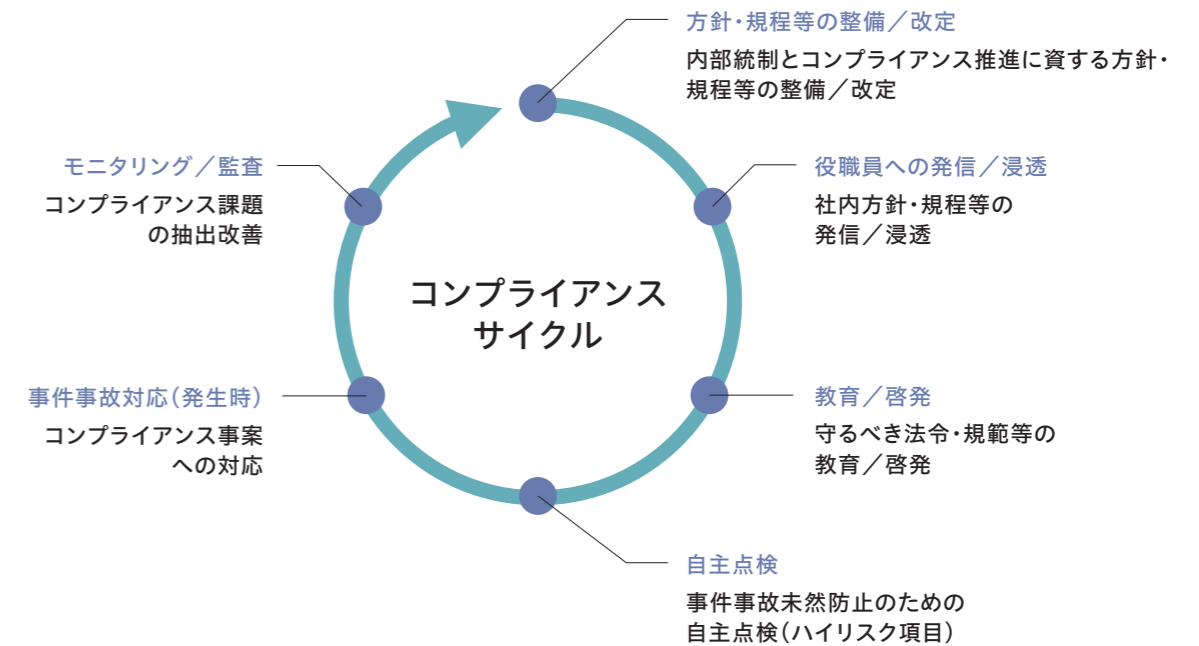
## コンプライアンス・リスクマネジメントの推進体制

当社グループでは、コンプライアンスとリスクマネジメント両機能の実効性向上を目的として、2024年度より新たな体制で推進しています。具体的には執行の意思決定および審議機関である執行役員よりコンプライアンスとリスクマネジメントに関わる経営課題の検討を委託された諮問委員会の設置、ならびに、経営層を対象にコンプライアンス、およびリスクマネジメントとサイバーセキュリティをテーマとしたグループ統合による体制整備・管理を推進する会議体の設置です。また実務者への教育を含む対策の実践と情報共有については、各推進会議の下部組織である部会を通じてそれぞれ推進しています。



## ◇ コンプライアンスサイクル

当社グループでは、「内部統制システム構築の基本方針(P.80)」に基づきグループコンプライアンス推進体制を整え、業務の健全かつ適切な運営を確保し、コンプライアンスに関わる事件事故を予防するための仕組みとしてコンプライアンスサイクルを確立し、運用しています。具体的には内部統制システムに紐づくコンプライアンスチェック項目に基づき、コンプライアンス体制の運用状況等をモニタリングのうえ、リスクレベルにより優先順位を判断し、教育・啓発、自主点検等の必要な改善対策を講じています。



## コンプライアンス

### コンプライアンスに関する考え方

当社グループでは、役職員がその職務の遂行にあたって適用を受ける法令通達、自主規制、職業倫理、社会通念上順守が求められる規範、および社内規程・ルール・マニュアル、ならびに契約・規約等を順守できるようにしていくために、コンプライアンスを価値観や意識・行動まで根づかせ実践することが重要であると考えています。そのために、役職員の日々の倫理的行動基準である「三越伊勢丹グループ行動規範(P.81)」を制定し、全社に浸透を図るとともに、役職員のコンプライアンスマインド醸成と、社会的信頼の確保に取り組んでいます。

### ◇ コンプライアンス推進体制

当社グループでは、コンプライアンスの推進にあたり、「コンプライアンス基本規程」を制定し、当社グループが企業の社会的責任を自覚し、現在直面または将来直面する可能性のあるコンプライアンス上の課題に適切に対応し、管理、予防を行うことによって、経営および業務執行の健全かつ適正な運営に資するための推進体制等を定め、コンプライアンス体制の維持向上に取り組んでいます。

コンプライアンス委員会	執行役会の諮問機関として経営上のコンプライアンス課題およびコンプライアンスサイクルの統制状況について討議
コンプライアンス推進会議	経営層を対象にコンプライアンスに関わる事項の方向性共有、および業務推進レベルの向上を追求
コンプライアンス部会	実務者を対象にコンプライアンスに関する教育・研修・啓発、および違反行為の共有と是正を推進

### ◇ ステークホルダーに対するコンプライアンス強化ポイント

①お客さま: お客さまとの関係性、 個人情報保護の取り組み	当社グループでは、「三越伊勢丹グループ行動規範」に基づき、法令や社会規範を順守し、高い倫理観を持ってお客さまに対応するとともに、お客さまからお預かりする個人情報を適切に管理し、正しく利用するために「プライバシーポリシー」を制定・公開し、それに基づく「個人情報取扱規程」を定め、適切な利用と厳重な保護管理を行っています。
②株主さま: IRポリシーに基づく 公平なコミュニケーション	当社グループでは、IR活動(株主・投資家さまへの広報活動)において、株主・投資家さまの信頼と共感を得られる企業を目指し「IRポリシー」を制定・公開し、公平な情報開示やコミュニケーションの充実を図っています。
③地域社会: 環境方針、 反贈賄ポリシーの制定	当社グループでは、持続可能な社会の実現に向けて、「三越伊勢丹グループ環境方針」を定め、環境保全活動を社会に対する企業としての責任と捉え、実行しています。また「三越伊勢丹グループ反贈賄ポリシー」を定め、国内外問わず、不正な利益を得る目的での金品その他の利益供与等を禁止しています。
④お取引先: 公正取引を推進するための 体制構築と運用	当社グループでは、「公正取引に関する指針」をはじめ、「三越伊勢丹グループ調達方針」および「パートナーシップ構築宣言」を定め、公正かつ自由な競争を堅持し、広く社会に貢献し続ける企業であるため、不当な取引制限などを排除するための体制構築と厳格な運用を推進しています。
⑤従業員: 内部通報窓口の設置と運営	当社グループでは、グループ内で不当行為が発生した場合にその事実を速やかに認識し改善していくために「グループホットライン規程」を定めています。それに基づく「グループホットライン」を設置、通報者保護の観点から社外専門会社・弁護士事務所が通報を受ける体制を整えています。

# 内部統制

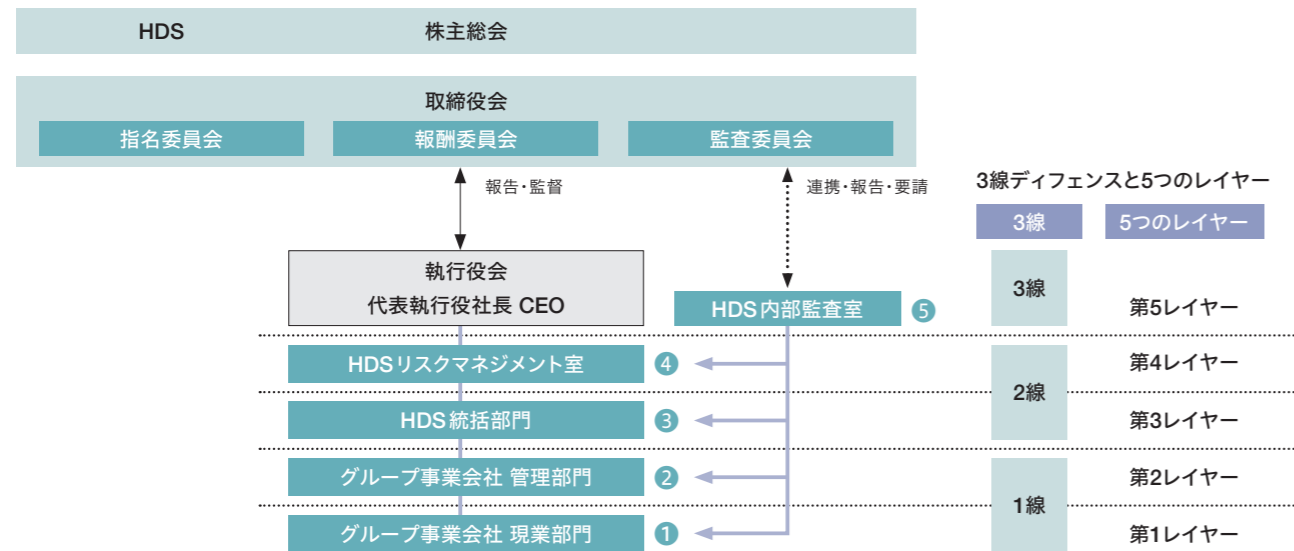
## リスクマネジメント

### リスクマネジメントに関する考え方

三越伊勢丹グループは、リスクが多様化する事業環境において、将来にわたり持続的な成長を可能にするため、「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、グループ全体の平常時におけるリスクの予防、およびリスク発生時における影響低減のための対応など、お客さま、お取引先、従業員の安全・安心を最優先に、リスクマネジメント推進体制の強化に取り組んでいます。

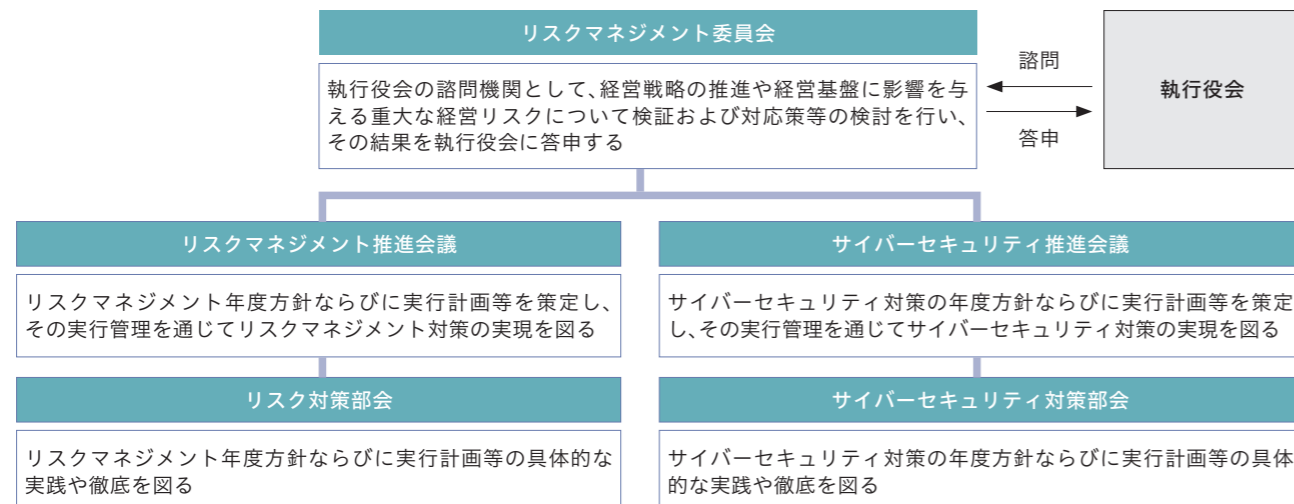
#### ◇ リスクマネジメント推進体制

当社グループのリスクマネジメント体制は、3つのディフェンスラインと5つのレイヤーで構成されています。各グループ事業会社を第1線、三越伊勢丹ホールディングス(以下、HDS)リスク管理部門を第2線、HDS内部監査室を第3線とする3つのディフェンスラインをベースとして、グループ体制を事業実態に応じた5つのレイヤー(①グループ事業会社現業部門、②グループ事業会社管理部門、③HDS統括部門、④HDSリスクマネジメント室、⑤HDS内部監査室)に整理し、各レイヤーの役割と責任を明確化することで、実効性の高いリスクマネジメント体制を構築しています。



#### ◇ リスクマネジメントの実効性を向上させるための運営体制

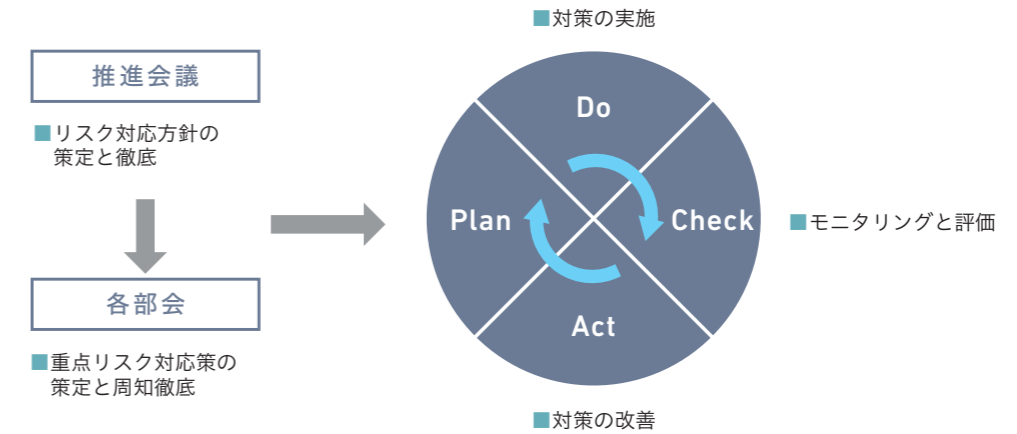
当社グループは、リスクマネジメントの実効性を向上させるため、以下のような運営体制を構築しています。



#### ◇ リスクマネジメントのPDCAサイクル

リスクマネジメント推進会議およびサイバーセキュリティ推進会議で示された年度方針ならびに実行計画等をもとに、各部署を通じて具体的な重点リスクへの対応策の策定と周知徹底を行っています。

対策の実行のために、グループ各社における訓練や自主点検活動などを実施。モニタリングと評価を経て、さらなる対策の改善につなげるというPDCAサイクルに基づいたリスク管理を実行しています。



#### ◇ リスクの捉え方について

当社グループは、リスクを捉えるにあたり、日々変化する外部環境とグループの事業特性・事業戦略を考慮し、多角的な視点からリスクの把握に努めています。グループ全体の事業を取り巻くリスクを5つのカテゴリー(①経営戦略上のリスク、②財務に関するリスク、③人事・労務に関するリスク、④災害等のリスク、⑤オペレーショナルリスク)に分類し、カテゴリーごとのリスクを洗い出し、リスク一覧として整理しています。リスク一覧については、毎年、その内容を見直し、月次でリスクへの対応状況を確認し、必要に応じて評価を見直しています。

また、リスクが顕在化した際には、物的損害、人的損害、財務・経営戦略遂行の阻害、レピュテーション毀損などの損害を被るものと捉え、発生頻度や事業への影響をもとにリスクマップを作成し、その中から重点リスクを選定、部会等を通じて対策の強化を図っています。なお、リスクへの対応状況については、執行役員および監査委員会に定期的に報告を実施しています。

#### リスクの分類と事例

リスク領域	リスク事例
(1) 経営戦略上のリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナビリティ経営の推進</li> <li>■ 新たなビジネス構築、デジタル社会への対応</li> <li>■ 海外情勢への対応</li> </ul>
(2) 財務に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資金調達</li> <li>■ 市場金利の上昇</li> <li>■ 為替変動</li> </ul>
(3) 人事・労務に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 専門人材の確保・育成</li> <li>■ ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョンへの対応</li> <li>■ ハラスメント、適正な労働時間管理</li> </ul>
(4) 災害等のリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然災害、火災</li> <li>■ 感染症</li> <li>■ 情報セキュリティ</li> </ul>
(5) オペレーショナルリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商品取引に関わるリスク</li> <li>■ 食品衛生事故</li> <li>■ 個人情報漏洩</li> </ul>

#### リスクマップ

